

キッズデザイン賞 審査委員長 ごあいさつ

子どものいない社会は考えられません。

どの時代のどこにでも必ず子どもたちがいる、そのことを十分考えた上でデザインを行ってきたと、私たちは言い切れるのでしょうか。

残念ながら答えは否定的にならざるを得ません。

商品にせよ、施設にせよ、街にせよ、あるいはサービスにしても、需要に合わせることを目的にデザインする限り、おのずから依頼主に気に入られるものを作ろうとします。

しかし、当然のことながら子ども自身が買い手であることはまれなのです。

子ども用のものは無論のこと、そうでなくても、そこに子どもがいる可能性がある限り、子どもたちの安全や、かれらに与える様々な影響を考えてデザインされるべきなのです。

今の子どもたちのためになるデザインをすることは、その子たちが育った未来の社会をデザインすることにほかなりません。

その意味で、キッズデザインはユニバーサルデザインであり、ソーシャルデザインであり、エコデザインでなければならず、まさにサステナブルデザインであり、だからこそグッドデザインであるための必須条件なのです。

加えて、キッズデザインは日本の子どもたちばかりでなく世界中の子どもたちのためのデザインでなければならないということを再確認したいと思います。



平成 26 年 3 月 3 日

キッズデザイン賞審査委員長

益田 文和

<プロフィール>

益田 文和 デザインコンサルタント

1949年東京都出身、1973年東京造形大学デザイン学科卒業後、建設会社、デザインオフィスを経て、1978年以降フリーのインダストリアルデザイナーとして家電をはじめとする様々な製品のデザイン開発や地域産業のデザイン振興など国内外のプロジェクトに関わる。1991年株式会社オープンハウス設立（代表取締役）、2000年より東京造形大学デザイン学科教授（インダストリアルデザイン／サステナブルプロジェクト）。公益財団法人日本デザイン振興会理事、サステナブルデザイン国際会議実行委員長、ソーシャル・サステナブルデザインの国際連携プロジェクト DESIS Japan の代表などを務める。2007年第1回キッズデザイン賞より審査委員。著書に「エコデザイン ベストプラクティス 100」（共著／ダイヤモンド社）、エコデザイン（共著／東大出版会）など。UP「記憶の形」（東大出版会／2009年1月号～2011年12月号まで連載）、コムジン（web magazine by NTT コムウェア）に「日本デザイン探訪」を連載中。